

平成19年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	地元産小豆で南信州の和菓子を創作
事業主体 (連絡先)	飯田下伊那菓子組合 理事長 木下龍亮 (専務理事 黒田 誠 0265-22-1930)
事業区分	産業振興、雇用拡大
事業タイプ	ソフト
総事業費	81,000円 (うち支援金:80,000円)

事業内容

- 1、飯田市・阿智村・大鹿村の高齢者中心に栽培者を募り、統一した品種で小豆栽培を開始した。
- 2、生産された小豆は菓子組合で現在加工試験中。
- 3、十勝農業試験場から12品種の種子を提供受け、県の奨励品種や販売品種を含めた14品種による品種試験を行い、現場に適応した品種の検討が行えた。(下伊那農業改良普及センターを介して中信農業試験場との協定研究として行った)
また、種子の一部を次年度分として確保した。



【品種試験ほ】

自己評価 (事業実施率) 【A】

事業効果

- 1、飯田市、阿智村、大鹿村で17名が呼びかけに賛同し、約50aで560kgの小豆が収穫できた。
- 2、菓子組合では会員が収穫された小豆の煮え具合や菓子への適正等を現在検討中。地元産の小豆に期待は大きい。
- 3、十勝農業試験場や県中信農業試験場と連携した取組により、地元にあった品種がある程度絞り込まれてきた。

【目標・ねらい】

- 地元産小豆で和菓子の創作
- 高齢者の所得確保
- 当地域にあった小豆の検証
-

自己評価 (目標達成率) 【A】

今後の取り組み

- 1、1年間取り組んでみて最大の課題は収穫選別の手間が膨大にかかる点であることを再認識した。栽培者の拡大のためには、この手間を省力化しないと難しいことが感じられ、現在選粒機の入手を検討しているが、栽培面積の拡大を伴わないと費用対効果の面から無理があるので、適当な補助事業等もあたっていているところである。
- 2、地元産小豆による和菓子の創作は栽培品種を絞って、今後も菓子組合として継続してゆく。